

情報科学専門学校

令和 7 年度学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価会実施要領

日時	令和 7 年 10 月 6 日(月) 16 : 00～17 : 30		
場所	情報科学専門学校 702 教室		
参加者	学校関係者評価委員 外部委員	海浦 洋子	神奈川県立図書館 学習相談員
		長谷川 長一	株式会社ラック サイバー・グリッド・ジャパン 主席研究員
		松岡 秀和	株式会社日経統合システム 上席執行役員 セキュリティービジネスユニット ユニット長
		和田 真名美	ゾーホージャパン株式会社 ManageEngine 事業部技術部
		迫頭 紳一	情報科学専門学校 情報セキュリティ学科 保護者
	学校関係者評価委員	那須 宗夫	グループ長
		小倉 正己	教務グループリーダー 4 学年担当(34 年制学科)
		鈴木 英人	業務リーダー 1 学年担当(2 年制学科)
		大久保 繁	業務リーダー 3 学年担当(34 年制学科)
		佐藤 真一	業務リーダー 2 学年担当(34 年制学科)
		佐藤 亮太	業務リーダー 1 学年担当
資料	・ 令和 7 年度学校関係者評価会 実施要綱 ・ 令和 7 年度自己点検・評価表		

2. 自己点検評価結果報告および各項目に対する学校関係者評価

2-1. 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none">・理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズ調査しているか・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか・学校における職業教育の特色は明確になっているか・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	<ul style="list-style-type: none">・学校の教育理念や目的、育成人材像は開学以来、明確に示されているが、生徒や保護者への周知については、十分理解され浸透するには至っていない。・生成AIが急速に浸透し、就職時に企業から求められるスキルが多様化している・企業における生成AI等の技術の利活用の知見を取り入れ、学生生活のツールとして積極的に活用していく。	<ul style="list-style-type: none">・生成AI利用については教職員含め、今まで以上に強化することが望ましいかと思います。

2-2. 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順（予防処置及び是正処置）を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から問い合わせがあった場合に受付職員が対応することが多いが、学費・奨学金などの詳細に及んだ場合に説明が十分でないことがある。 ・専門分野に精通した教職員が不在とならないよう、複数の教職員が対応できるように共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション手段としてSlackなどのツールが普及し、便利な反面、教職員の方も休日問わず連絡を取れるので、オンオフの区別をつけて運用してほしい。

2-3. 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか（iCD（i コンピテンシ ディクショナリ）と関連付けて到達目標を明確にできているか） ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・講義および実習に関するシラバスは作成されているか（学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか） ・シラバス（作成されていればコマシラバス）には到達目標が記載されているか（Can-Do を意識した到達目標の明示） ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・e-Sports 関連業務、AI 関連業務を経験している人材の登用が難しい。 ・教員個人との採用だけでなく、法人との教育コンテンツの連携も含めて広く検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に IT 分野は教育内容も常にアップデートし続ける必要があることから、優秀な教員の確保にはより一層尽力していただきたい。 ・新しい技術や世の中で注目されている技術は移り変わりが激しいと思われるので、専任教師だけでなく外部講師を招くなど、トレンドに遅れないよう常に見直しをお願いします。

<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスあるいは講義要項（作成されていればコマシラバス）は事前に学生に配布され、授業で有効活用されているか ・実技・実習が講義と連動するなど、効果的学習に配慮されているか ・カリキュラムに関し、定期的に外部者（IT 企業、情報系業界団体等）の評価や意見を取り入れているか ・実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則（情報セキュリティ、個人情報の管理・取扱い、著作権、SNS の利用等）が整備され、公表されているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・カリキュラムの作成・見直し等に関し、外部関係者からの評価や意見を取り入れているか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 		
--	--	--

2-4. 学修成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・目標とする資格試験への合格率はどうか ・卒業生の就職率はどの程度か ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか） ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的（到達目標）を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス（教育・訓練）を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業した学生の企業での動向についての把握が難しい。 ・卒業生との LINE 機能を活用して、定期的に情報発信を行う運用を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AI の活用は今後どんな分野でもますます必須になっていくので、専門学校で IT 分野を学んだ学生には、単に「AI を使いこなせる」だけでなく、「AI の仕組みを理解し、職場で AI の活用を牽引する」能力が求められるのではないかと。また、そのような能力を育成していただきたい。 ・在学中に資格取得に取り組むことはとても有意義である。取得した資格が今後働く上で武器になるのはもちろん、学生時代に「資格を取得する」というプロセスを経験することで、社会に出てからも主体的に資格取得に取り組むモチベーションに繋がるので、さらに推進していただきたい。

2-5. 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取り組みが行われているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校からの依頼に応じて出前講座等行っているが、一貫教育などの積極的な連携はしていない。 ・高校ガイダンスや出前講座等を行っている高校との連携を強化し、高校での学習と連動したキャリア教育を検討、提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校との連携に関しては、単発の出前講座にとどまらず、「今後の改善方策」にもあるような「高校での学習と連動したキャリアプログラム」を積極的に提案していただきたい。ITの分野は高校で十分な教育が行われていない現状があるので、高校での学習と専門学校でのより専門的な学びを連動させることによって、将来の職業選択の幅が広がることを具体的に示す絶好のチャンスになるのでは。

2-6. 教育環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか（講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか。またその大きさは学生数に見合ったものであるか） ・カリキュラム上必要となる実習に用いる器材及びソフトウェア等を使用できる実習環境が備わっているか。また必要な数のライセンスが準備されているか。 ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル等が利用する体育館の予約が他校の利用と競合し、確保が難しい。 ・学園本部の担当者と体育館利用及び海外研修について年度初めに活動計画を共有する。。 ・備品については、頻繁に使用しているもの（個人ブース、i-crossArena、スタジオなど）は適宜管理されているが、使用しなくなったものは管理が杜撰になってしまう。 ・使用しない設備、備品については廃棄、倉庫へ移動するなど最終処理を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツールを活用して学生と教員の対話を促進したり、スクールカウンセラーを常駐させる等、学生支援に配慮していることは、学生や保護者に安心感を与えると同時に、学生の定着率の向上にも効果的であろう。

2-7. 学生の受入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) ・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・給付型奨学金などの支援制度の適用範囲が広がり、対応する校務が複雑化している。 ・奨学金等に精通した職員の育成と共に、クラス担任等の教職員が広く理解し、来校する学生に適切な説明ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人に向けた職業訓練については、情報科学専門学校が自校ならではのコンテンツを提供できたら良い。

2－8. 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特にコメントなし。

2－9. 法令等の遵守

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト（ファイル管理簿）ならびに決裁の流れを含む決裁規程（文書処理規程）が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の扱いやコンプライアンスなど教職員の研修を適宜行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特にコメントなし。

2－10. 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座・教育訓練については、学園本部が担当し適宜実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と積極的に連携を行われていることが、良い取り組みと思います。

2－11. 国際交流

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学修成果が国内外で評価される取組を行っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、入学を希望する留学生がおらず、留学生の在籍数は0名となっている。 ・今後の動向に応じて、留学生の受け入れについても検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後どんな職場でも外国人の雇用が進むと思われるので、外国語によるコミュニケーションを体験したり、留学生と交流する場を設定したりすることによって、多様な文化に触れる機会を得られるとよい。

以上

次回、R07年度の自己点検・評価に関する学校関係者評価委員会は2026年7月に開催させていただきます。